

ニホンチビヒメフナムシ 等脚目(ワラジムシ目)フナムシ科  
*Ligidium (Ligidium) paulum* Nunomura, 1976

鳥取県：情報不足(DD)

環境省：-

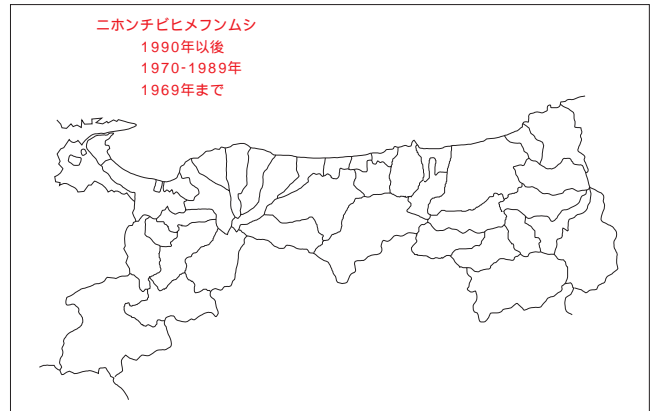


選定理由：全国的にも限られた地域からしか知られておらず、県内に広く分布するニホンヒメフナムシに比べ極端に発見例が少ない。生息場所も落葉層下部層に限られる。

形態と生態：体長4mmまで。生時は褐色。第2触角は6-8鞭節から、目は20-30個眼からなる。第1胸節後側縁はほぼ直角。第1胸節後側部に束状の毛をもつ(*Ligidium* 亜属の特徴)。腹尾節の後縁は丸い。雄第2腹肢内肢は長く、その先端部は細い突起物となる。ニホンヒメフナムシ *Ligidium (Nipponoligidium) japonicum* より小型で、少数の卵を産む。

分布(県内)：佐治村山王滝と鹿野町河内。

分布(県外)：京都府、福井県、群馬県の限られた場所のみ(日本固有種)。



保護上の留意点：既知産地はよく保全された森林であることから、落葉層の発達した森林の保護が重要と思われる。

文献：

- Nunomura, N. (1976) *Ligidium paulum*, a new terrestrial isopod from Ashu, Kyoto Prefecture. Bull. Osaka Mus. Nat. Mus. 30: 1-4.  
 Nunomura, N. (1983) Studies on the terrestrial isopod crustaceans in Japan. Taxonomy of the families Ligiidae, Trichoniscidae and Olibrinidae. Bull. Toyama Sci. Mus., 5: 23-68.

執筆：布村 昇

ニホンハマワラジムシ 等脚目(ワラジムシ目)ウミベワラジムシ科  
*Armadilloniscus japonicus* Nunomura, 1984

鳥取県：情報不足(DD)

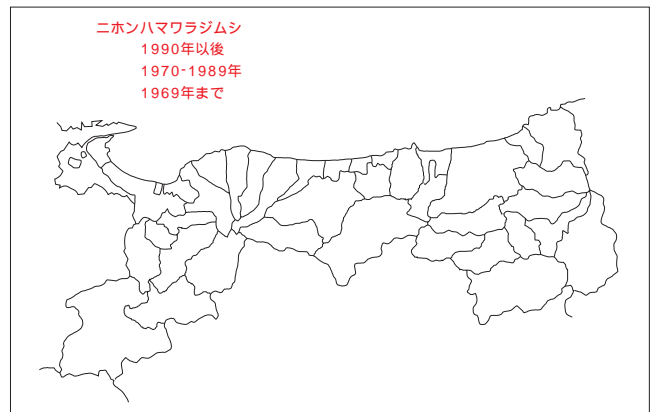
環境省：-



選定理由：自然海岸の飛沫帯で、適度の湿り気があり、潜行可能という限られた底質にのみ生息。県内の分布も限定されると予想される。

形態と生態：体は平たく楕円形。体長5.5mmまでで、体幅の1.8倍。生時は赤紫で平たい。頭部前縁中央に前方に突き出た鋭い突起がある。第2触角は4鞭節からなる。目には6個の個眼がある。雄の生殖突起は紡錘形。腹肢には偽気管をもたない。第1腹肢内肢先端は細くなり先端でとがる。外肢は丸い。雄第2腹肢内肢は細長く、外肢は丸みを帯びた三角形。尾肢原節は大きく両肢は細い。腹尾節は丸い。

分布(県内)：泊村、羽合町、東伯町など生息地は比較的



限られている。

分布(県外)：日本全国。

生息環境：自然の岩礁海岸や適当な形状の転石海岸。適度の大きさの砂利浜で、飛沫帯など適度な湿り気などの条件がそろった環境でのみ発見される。

保護上の留意点：自然海岸の急速かつ大規模な改変を避ける以外に方法はない。

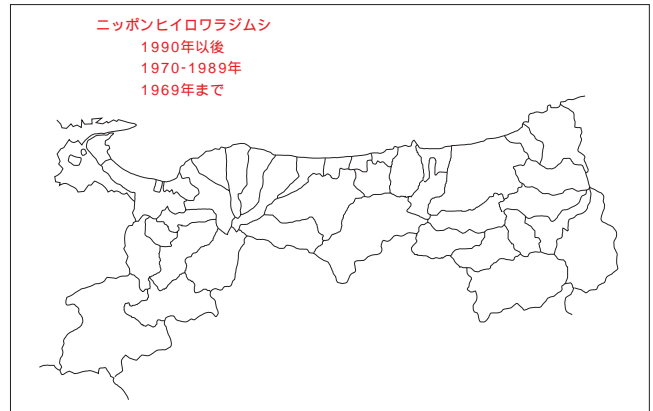
文献：

- Nunomura, N. (1984) Studies on the terrestrial isopod crustaceans in Japan, II. Taxonomy of the family Scyphacidae. Bull. Toyama Sci. Mus., 6: 1-43.

執筆：布村 昇

ニッポンヒロワラジムシ 等脚目(ワラジムシ目)ヒメワラジムシ科 鳥取県: 情報不足(DD)  
*Littorophiloscia nipponensis* Nunomura, 1986

環境省: -



選定理由: 県内では泊村, 岩美町, 青谷町などの限られた自然海岸において, 飛沫帯の特定のゾーンの限られた部位から知られるのみ。

形態と生態: 体長4.7mmまで, 生時の色彩は赤茶色。第2触角は3鞭節からなる。目は8-10個眼からなる。雄生殖突起は先端に向かって尖る。雄第1腹肢内肢は比較的太く先が尖る。外肢は丸みを帯びた三角形。雄第2腹肢内肢は細く長い, 外肢は丸みを帯びた三角形。生息は, 飛沫帯の岩礁の割れめなど湿度が適当で塩分がある場所に限られる。

分布(県内): 泊村, 岩美町, 青谷町などの自然海岸の飛沫帯の限られた場所。

分布(県外): 全国各地および韓国。

生息環境: 自然海岸の飛沫帯のうち, 適度な湿り気をも

つくぼみのある岩盤をはじめ, 粗い砂や砂利が堆積しているなど, 独特の環境条件を満たす場所。

保護上の留意点: 上のような海岸は人為的改変に対して脆弱であり(容易に乾燥する), 生息地が消滅しやすいため, 注意が必要である。

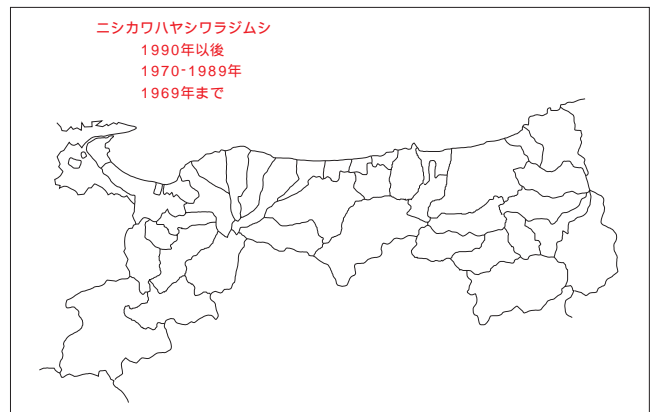
文献:

Nunomura, N. (1986) Studies on the terrestrial isopod crustaceans in Japan. III. Taxonomy of the families Scyphacidae (continued), Marinoniscidae, Halophilosciidae, Philosciidae and Oniscidae. Bull. Toyama Sci. Mus., 9: 1-72.

執筆者: 布村 昇

ニシカワハヤシワラジムシ 等脚目(ワラジムシ目)トウヨウワラジムシ科 鳥取県: 情報不足(DD)  
*Agnara nishikawai* (Nunomura, 1987)

環境省: -



選定理由: 県内の既知生息地が大山町大山に限定されるが, 調査は不十分。

形態と生態: 体長6.7mmまで。生時は白または薄い褐色。第2触角は2鞭節からなり, 第2節は第1節の2.6倍の長さ。第1胸節後側縁は丸みを帯び, 凹みは無い。雄生殖突起は細い紡錘形。雄第1腹肢内肢はまっすぐ, 外肢は半円形で外縁に浅い凹凸がある。雄第2腹肢内肢は外肢より短い。尾肢外肢は内肢より太く長い。腹尾節の後端はほぼ直角である。県内では1984年に大山町大山西歩道の林内の土壌リター中から採集された標本があるだけであるが, 調査がすすめばもっと広範囲に出現する可能性がある。また, この

類の分類は発展途上であり, 将来は分類学的扱いが変更される余地も残されている。

分布(県内): 大山町大山。

分布(県外): 島根県, 山口県(日本固有種)。

生息環境: 森林の土壌リター中。樹種など詳細は不詳。

保護上の留意点: 生息範囲の調査が望まれる。

文献:

Nunomura, N. (1987) Studies on the terrestrial isopod crustaceans in Japan, IV. Taxonomy of the Trachelipidae and Porcellionidae. Bull. Toyama Sci. Mus., 11: 1-76.

執筆者: 布村 昇

コヤマホラケヤスデ ツムギヤスデ目ホラケヤスデ科  
*Speophilosoma koyama* Shear, Tsurusaki & Tanabe, 1994

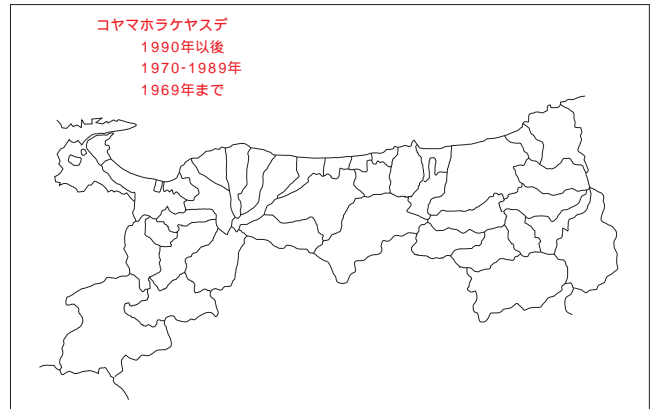
鳥取県：情報不足(DD)

環境省：-



選定理由：鳥取市湖山周辺の小丘陵にのみ生息する固有種で、これらの小丘陵の林地が消失すると絶滅のおそれがある。ただし、分布範囲が調査不十分なため、「情報不足」とした。

形態と生態：体長5mm(雄)-5.5mm(雌)前後の小型白色のヤスデ。胴節数26、おもに千代川から東側の丘陵に分布するトトリホラケヤスデ*S. tottoriense*とは片側の眼域あたりの単眼数が3-5(トトリでは10)であることで区別できる。岩美町から三朝町までの丘陵林地には、もう1種、よく似たオカシロケヤスデ*Japanoparvus okai*(体長約4.5mm、胴節数28、単眼数3-6)が生息するが、これはホラケヤスデ属からは雄の第7肢が生殖肢に変形しないこと、雌雄ともに胴節上の毛が短いこと(約0.07mm、ホラケでは約0.2mm)などで区別できる。成体は晩秋から翌年5月頃まで出現。鳥取市湖山天神山が模式産地。



分布(県内)：おもに千代川以西の湖山周辺の小丘陵。

分布(県外)：現在のところ鳥取県固有種。

生息環境：落葉および常緑広葉樹林の林床の落葉落枝層。

保護上の留意点：生息地の樹林の伐採や土地の改変に注意。

文献：

Shear, W. A., Tanabe, T. & Tsurusaki, N. (1997) Japanese chordeumatid millipeds. IV. The new genus *Japanoparvus* (Diplopoda, Chordeumatida, Hoffmaneamatidae). Myriapodologica, 4: 89-99.

Shear, W. A., Tsurusaki, N. & T. Tanabe (1994) Japanese chordeumatid millipeds. I. On the genus *Speophilosoma* Takakuwa (Diplopoda, Chordeumatida, Speophilosomatidae). Myriapodologica, 3: 25-36.

執筆：鶴崎展巨

クビオビヤスデ オビヤスデ目オビヤスデ科  
*Epanerchodus tenuis* Takakuwa, 1954

鳥取県：情報不足(DD)

環境省：-

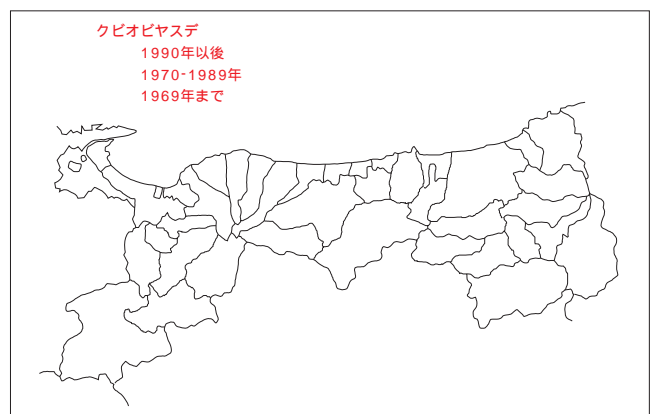


同属のイシイオビヤスデ 鳥取市徳尾産 目片 隆採集  
 / 撮影：鶴崎展巨

選定理由：1954年の原記載(模式産地：東伯郡三朝)以来、どこからも採集記録がない。微小なヤスデではないので、個体数は多くはないと推測される。分布も模式産地を含む一帯に限定されている可能性がある。

形態と生態：体長23mm、体幅2.5mmほどの中型のヤスデ。背板には格子状の彫刻がある。原記載には記されていないが、背面はオビヤスデ属に共通の赤褐色を呈するものと思われる。原記載には全形図がないが、ここにはほぼ同様の外観と思われる同属のヤスデの写真を掲げた。

分布(県内)：東伯郡三朝(模式産地)



分布(県外)：報告なし。目下のところ鳥取県固有種。

生息環境：報告はないが、樹林下の落葉土中に生息するものと思われる。

保護上の留意点：個体数が少なく、分布も限定されている可能性がある。模式産地一帯では森林の一斉皆伐を避けるなどの配慮が望まれる。

文献：

高桑良興(1954)日本産倍足類総説。日本学術振興会, 241pp. + 10.

執筆：田辺 力

キシノウエトタテグモ クモ目トタテグモ科  
*Latouchia swinhoei typica* (Kishida, 1913)

鳥取県：準絶滅危惧(NT)

環境省：準絶滅危惧(NT)



鳥取市久松公園 1993.5.8

選定理由：県内では鳥取市久松山山麓きゅうしょうざんから知られるのみ。個体数も非常に少ない。

形態と生態：体長(雌)15mm内外。崖地にハッチ式扉をもつ横穴式の管状住居をつくる。久松山の集団については不明だが、関東地方での調査によれば7-8月に産卵、孵化後2年で成体に達し、秋に交尾して雄は年内に死亡、雌は翌夏に住居内で産卵して、その後も数年生き続けるという。梅雨の頃にはしばしば冬虫夏草の1種クモタケが発生する。

分布(県内)：鳥取市久松山(久松公園、水道谷)

分布(県外)：本州・四国・九州・南西諸島(日本固有種)、日本海側では他に石川県金沢市兼六園から知られるのみ。

生息環境：常緑広葉樹の木陰になった崖地斜面。他県でも生息地は山地よりも市街地の庭園や城址で見つかる傾向



がある。

保護上の留意点：久松公園の一角の本種の生息する崖地は、崩壊を心配してか現在、縄張りにより人が接近できなくしてある。この崖地側面をコンクリートで固めてしまうことのないよう配慮してほしい。

文献：

畑守有紀(1997)クモタケ*Nomuraea atypicola*の全国分布調査結果(1993~1996年) Kishidaia, 72: 34-47.

牧 孝匡(1989)キシノウエトタテグモの生活史. *Atypus*, 94: 18-25.

新海 明(1992)トタテグモ類の生態(1) 生活史. Kishidaia, 63: 26-30.

執筆：鶴崎展巨

キノボリトタテグモ クモ目トタテグモ科  
*Ummidia fragaria* (Dönitz, 1887)

鳥取県：準絶滅危惧(NT)

環境省：準絶滅危惧(NT)



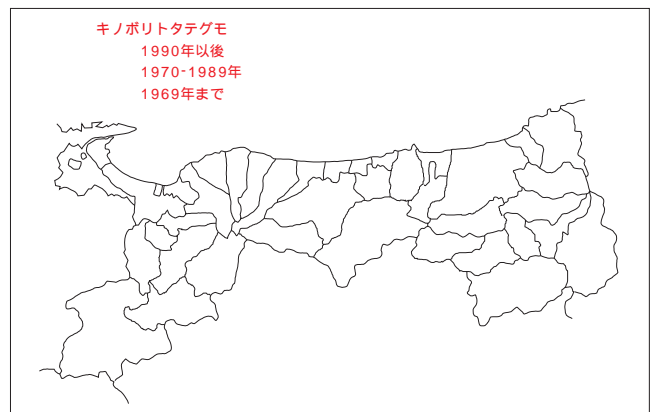
雌 愛媛県温泉郡重信町 2000.5.19 / 撮影：鶴崎展巨

選定理由：既知生息地が限られており、個体数も少ない。

形態と生態：体長雌10mm、雄7mmほどの黒紫色のクモ。神社の石垣や古木の樹幹のくぼみなどにハッチ式扉をもつ長さ2-3cmの袋状の住居をつくり中に潜む。住居の外側は泥や樹皮碎片で覆われ発見しづらい。成体は、雄は5-7月、雌は周年みつかるといわれる。

分布(県内)：岩美町ながたに長谷長谷神社、浦富熊野神社、鳥取市猪子、倉吉市打吹山(以上、現況確認済み)、倉吉市福庭波波伎神社、東郷町宮内倭文神社(以上、現況未確認)。

分布(県外)：本州(南部)、四国、九州、南西諸島。日本固有種。



生息環境：やや薄暗い神社境内の樹幹や石垣。

保護上の留意点：神社境内の過度の清掃、石垣のコンクリート目張りなどは本種の生息に大きく影響するので、生息地では配慮いただきたい。

文献：

有田立身・鶴崎展巨(1993)キシノウエトタテグモ・キノボリトタテグモ. pp. 184-185. In: 鳥取県のすぐれた自然(動物).

池田博明(1987)クモ生理生態事典. 173 pp. 著者自刊

執筆：有田立身・鶴崎展巨

ワスレナグモ クモ目ジグモ科  
*Calommata signata* Karsch, 1879

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：準絶滅危惧 (NT)

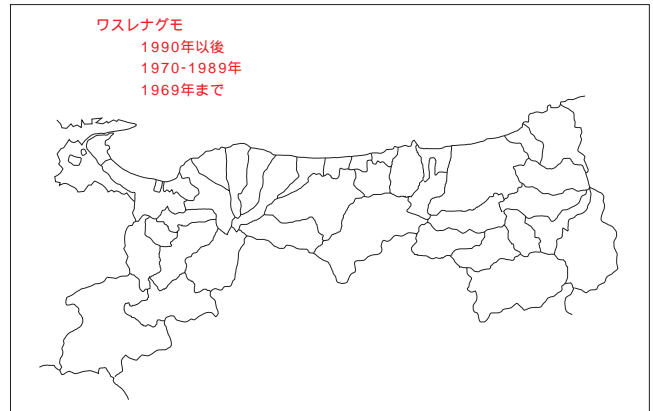


雌 岩美町牧谷 2001.5.12 / 撮影：鶴崎展巨

選定理由：県内での生息がきわめて限定される。これまで鳥取市猪子からの1例記録のみだったが、最近、岩美町牧谷の山陰自然科学館敷地内に生息地が確認された。個体数は少なく注意が必要。

形態と生態：体長雌17mm内外，雄7mm内外。明るい床下や芝生のある裸地などの地中に縦穴の管状住居をつくる。住居内は糸で密に裏打ちされるが、巢の入口に扉はない。雌は年中，雄（鳥取県では未確認）は9-10月に採集される。

分布(県内)：鳥取市猪子（過去に1回記録あるのみ）。岩



美町牧谷，

分布(県外)：本州・四国・九州；朝鮮半島，中国。

生息環境：芝生をともなう裸地。

保護上の留意点：生息地の地表が高茎の雑草で覆われないうちに、芝生が維持管理されることが大切と考えられる。

文献：

池田博明（1987）クモ生理生態事典。173 pp. 著者自刊

執筆者：有田立身・鶴崎展巨

ダイセンヤチグモ クモ目ガケジグモ科  
*Coelotes eharai* Arita, 1976

鳥取県：その他の重要種 (OT)

環境省：-

雌 広島県比婆郡西城町 立烏帽子山 2001.12.9  
(井原 恵採集) / 撮影：鶴崎展巨

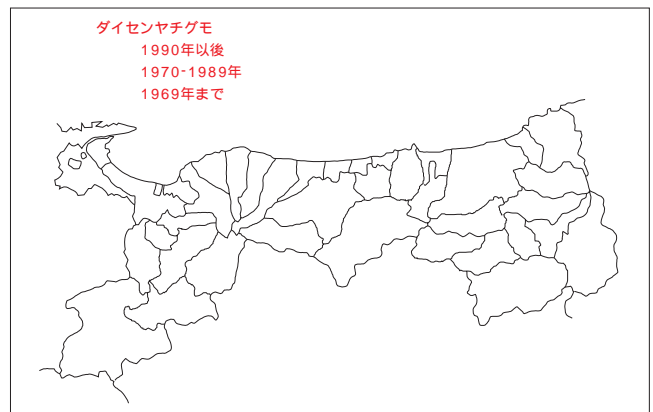
選定理由：県内の限られた山地に生息地が限定されている。また、本県は本種の分布域の北限に相当。

形態と生態：体長6-8mmくらいの小型のヤチグモ。秋に成体が出現し，成体で越冬する。

分布(県内)：大山，氷ノ山（兵庫県側で記録）でだけ確認されているが，県内の1000m以上の山地には分布する可能性がある。

分布(県外)：兵庫県以西の本州，四国，九州の山地（日本固有種）

生息環境：標高900-1000m以上のまとまった山地森林に生息し，林床の落葉の中や倒木の下から採集される。落葉広葉樹林のほか，スギ植林地でも確認されている。



保護上の留意点：山地森林の保全が重要。分布域の詳細な調査も望まれる。

特記事項：鳥取県大山が模式産地。

文献：

Arita, T. (1976) Three new *Coelotes* (Araneae, Agelenidae) from Tottori Prefecture, West Japan. *Annot. Zool. Japon.*, 49: 197-204.

有田立身 (1993) ヤチグモ類. pp. 186-187. In: 鳥取県のすぐれた自然 (動物).

山本一幸 (1980) 兵庫県北西部に産するヤチグモ属(予報). *Atypus*, 77: 5-8.

執筆者：井原 庸

イソコモリグモ クモ目コモリグモ科  
*Lycosa ishikariana* (S. Saito, 1934)

鳥取県：絶滅危惧II類(VU)

環境省：絶滅危惧II類(VU)



雌 鳥取砂丘 1990.9.23



選定理由：県内の砂浜海岸に散在的に分布。近年個体数の減少が著しい。鳥取県は本種の分布南西限。

形態と生態：体長雄15mm内外，雌20mm内外の大型のコモリグモ。灰褐色の毛におおわれ全体に白っぽいが頭胸部の中央や腹部前方の中央部は黒褐色となる。砂浜に10-20cmほどの深さの巣穴をつくり中に潜む。巣の入口には糸の裏打ちがみえるので，他の昆虫や甲殻類が作成した穴とは区別できるが，夏季の日中や冬季は入口を閉じているので発見しにくい。

分布(県内)：ほぼ全域の砂浜海岸。

分布(県外)：本州，北海道，国後島。生息地は日本海側

に多く鳥取県は南西限。太平洋側では茨城県が南限。

生息環境：砂浜海岸。

保護上の留意点：海浜植物群落をともなう砂浜が広面積で維持されることが重要。

文献：

有田立身(1993)イソコモリグモ. pp. 190-191. In:鳥取県のすぐれた自然(動物).

福本伸男(1989)鳥取県海浜におけるイソコモリグモの分布. Atypus, 94: 5-9.

執筆者：鶴崎展巨

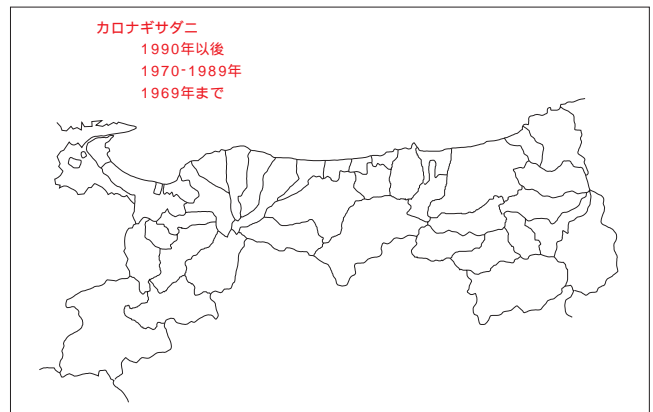
カロナギサダニ ダニ目ウシオダニ科  
*Actacarus karoensis* Abé, 1990

鳥取県：準絶滅危惧(NT)

環境省：-



雄 / 撮影：安倍 弘



選定理由：鳥取市賀露海岸の波打ちぎわの砂の中から採集された標本に基づいて記載された種で，今のところ他所からは発見されていない。

形態と生態：雄は胴長174 μm，胴幅82 μmで，雌は胴長190 μm，胴幅94 μm。背面から見ると長楕円形のダニで，胴部背面は，前背板と，これよりはるかに大型の後背板によって広く被われる。前背板には1対，後背板には4対のきわめて細長い糸状の胴背毛を備える。年間を通じて生息するが，夏季には個体数が減少するようである。

分布(県内)：鳥取市賀露海岸(模式産地)。

分布(県外)：現在のところ鳥取県固有種。

生息環境：粒度の比較的粗い砂中間隙にしか生息しないようで，鳥取砂丘や浜村海岸(気高郡気高町)などの細か

い砂粒からなる海浜では発見されない。1987年の最初の採集以降，賀露海岸はテトラポットの設置などにより著しく改変されたが，安倍 弘氏(本種の原記載者)による1992年秋の調査では，本種の生息には幸い影響が出ていないという。

保護上の留意点：カロナギサダニの保護には，賀露海岸の砂浜が守られることが必要である。それと同時に，この海が汚染されないことが不可欠である。

文献：

Abé, H. (1990) Two species of the genus *Actacarus* (Acari, Halacaridae) from Japan. Zool. Sci., 7: 111-126.

江原昭三・鶴崎展巨(1993)カロナギサダニ・スナヒメハダニ. pp. 204-205. In: 鳥取県のすぐれた自然(動物).

執筆者：江原昭三

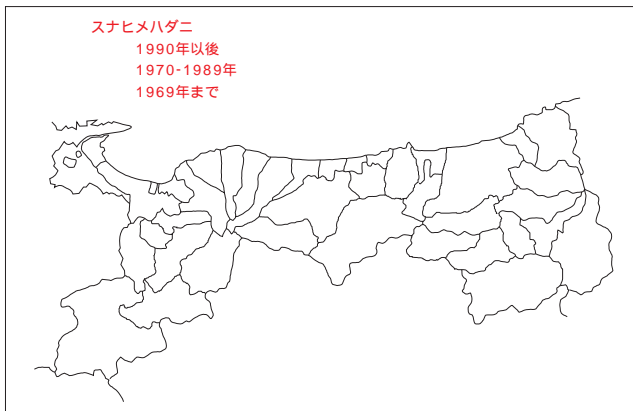
スナヒメハダニ ダニ目ヒメハダニ科  
*Aegyptobia arenaria* Ehara, 1982

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省： -



雌 (位相差顕微鏡写真)



選定理由：鳥取砂丘に生える砂丘植物の一つカワラヨモギに生息する個体に基づいて記載された種で、今のところ他所からは見つかっていない。

形態と生態：雌の体長(口吻を含む) 330 μm, 体幅170 μm。体(胴部)は扁平で背面から見ると長楕円形。胴部の前端中央に深い切れこみがある。胴背面には粗く刻まれている多数の条線があり、その多くは縦方向に走る。16対のへら状で平滑な胴背毛をもつ。胴背毛の長さは11-18 μm程度。触肢(5節からなる)と口吻はともに長く、触肢の基節は内側で口吻と融合する。脚は太短く、その毛の一部は胴背毛と同様、へら状。雄は未知。本種は、本属の日本で唯一の種。和名は砂丘に因む。生活史は不詳であるが、年間に複数の世代を経過するであろう。

分布(県内)：鳥取砂丘(模式産地)。他の地域からも見つかる可能性がある。

分布(県外)：未知。

生息環境：カワラヨモギの葉に寄生(食植性)。

保護上の留意点：砂丘特有の植生が護られている限りは問題がない。しかしながら、鳥取砂丘における近年の除草作業によって、カワラヨモギも減少のおそれがある。

文献：

Ehara, S. (1982) Two new species of false spider mites (Acarina, Tenuipalpidae). Annot. Zool. Japon., 55: 175-179.

江原昭三・鶴崎展巨(1993) カロナギサダニ・スナヒメハダニ. pp. 204-205. In: 鳥取県のすぐれた自然(動物)。

執筆者：江原昭三

ダイセンニセタテヅメザトウムシ ザトウムシ目ニセタテヅメザトウムシ科  
*Metanippononychus daisenensis* Suzuki, 1975

鳥取県：その他の重要種(OT)

環境省： -



雌 智頭町右手峠 1993.5.8



選定理由：鳥取県とその近辺の山地の固有種。県西南部の山域では生殖器の形態などに地理変異が認められる。

形態と生態：全体黄橙色で短脚小型(体長1.5-2.0mm内外)。主にブナ帯以上の山地森林の落葉落枝層に生息し、幼体は7-8月に、成体は周年見つか。雄の生殖器形態で、分布域の西端に位置する日南町の船通山から道後山にかけての地域の集団(道後型)は、それ以東の集団(基本型)と区別できる(分布境界では中間型となる)。

分布(県内)：鳥取県とその近辺の山地(おもにブナ帯以上)。鳥取県大山が模式産地。

分布(県外)：中国地方東部(兵庫県宍粟郡一宮町富士野峠から島根県仁多郡横田町船通山~広島県道後山まで)の

固有種。

生息環境：ブナなどの落葉広葉樹林とスギ林の落葉層。

保護上の留意点：地理的分化の観点からは日南町の集団(分布図の斜線部)の保全がもっとも重要。

文献：

Suzuki, S. (1975) The harvestmen of family Triaenonychidae in Japan and Korea (Travunoidea, Opiliones, Arachnida). J. Sci. Hiroshima Univ. (B-1), 26: 65-101.

鶴崎展巨(1993) ダイセンニセタテヅメザトウムシ. pp. 206-207. In: 鳥取県のすぐれた自然(動物)。

執筆者：鶴崎展巨

ゴホントゲザトウムシ ザトウムシ目マザトウムシ科  
*Opilio spinulatus* Roewer, 1911

鳥取県：準絶滅危惧(NT)

環境省：-



雌 鳥取市待居 1992.6.1



選定理由：県内では鳥取市待居の千代川河川敷の1カ所のタケ林に生息が知られるのみ。集団の規模が小さく絶滅の危険が大きい。

形態と生態：体長1cm内外の大型でやや短脚のザトウムシ(マザトウムシ亜科)。体は黒褐色で腹部背面の中央に5個の短いとげが縦列する。幼体越冬で、成体は5-6月頃に出現。

分布(県内)：鳥取市待居の千代川河川敷のマダケ林。

分布(県外)：神奈川県以西の本州，四国，九州(国内では九州以外はどこも分布は局地的)；朝鮮半島，中国。

生息環境：人里付近の雑木林や竹林など。九州では山地の草原にもみられる。

保護上の留意点：九州などでは明るい山地草原などに多い種であり，もともとやや開けた環境を好む種と思われる。生息地の雑木林や竹林が放置されて林床が過度に暗くなりすぎないように適切な維持管理が望ましい。

文献：

鶴崎展巨(1993)ゴホントゲザトウムシ. pp. 210-211. In:鳥取県のすぐれた自然(動物).

執筆者：鶴崎展巨

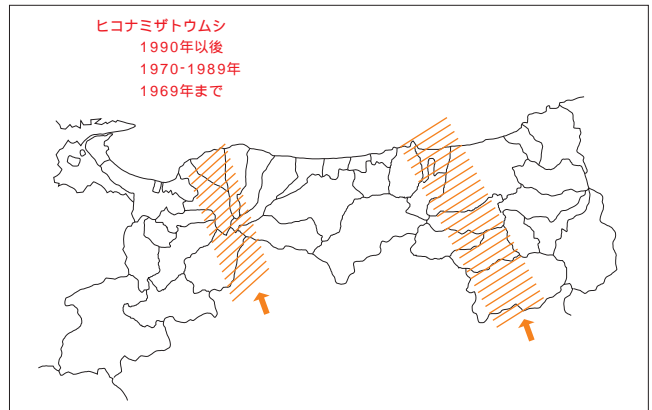
ヒコナミザトウムシ ザトウムシ目マザトウムシ科  
*Nelima nigricoxa* Sato & Suzuki, 1939

鳥取県：その他の重要種(OT)

環境省：-



雄 大山大山寺 1992.10.3



選定理由：鳥取県大山付近で染色体数が $2n=16-20$ の幅で変異し，交雑帯も観察される。また，県東部では歩脚基部の斑紋が変異する。これらの交雑帯は貴重である。

形態と生態：体長雄6mm，雌9mm程度，歩脚開長は15cmを超える大きさで，個体数も多く，山野でもっとも目立つザトウムシ(スベザトウムシ亜科)。卵越冬で幼体は5月上旬頃孵化，8月上旬に成体となる。交尾は9月以降にはじまり，11月頃までに産卵のち死亡する。染色体数は県内で $2n=20$ (大山以西)，18(大山東部～関金町)，16(関金町以東)と分化し，それぞれの分布境界で交雑帯を形成する。また，近畿地方北部の集団は歩脚基部が黒化するが，この性質は千代川の西側にまで及び，気高町，鹿野町にかけての一带で黒化しない型に漸次移行する。

分布(県内)：県内全域の山地。

分布(県外)：千葉県，伊豆・箱根地方，福井県以西の本州，四国，九州(日本固有種)。

生息環境：低地から山頂までの適度な湿気のある森林。

保護上の留意点：配慮を要する地域は，染色体交雑帯の成立する大山町・溝口町・江府町(大山周辺， $2n=18/20$ )，および関金町蒜山北斜面( $2n=18/16$ )，斑紋に関する交雑帯の成立する千代川西方の山地(佐治村，河原町，鳥取市，鹿野町)である(分布図の斜線部)。

文献：

鶴崎展巨(1993)ヒコナミザトウムシ. pp. 212-213. In:鳥取県のすぐれた自然(動物).

執筆者：鶴崎展巨



ヤマスベザトウムシ ザトウムシ目マザトウムシ科  
*Leiobunum montanum* Suzuki, 1953

鳥取県：その他の重要種（OT）

環境省：-



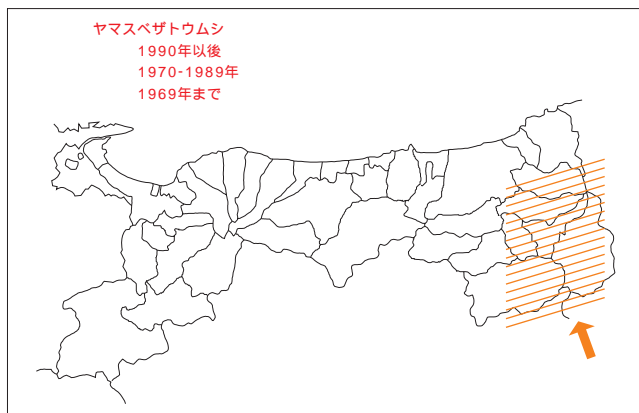
雄 智頭町黒尾峠 1990.8.10

選定理由：県内で外部形態や染色体数が著しく分化する。とくに県東部（郡家町，八東町，若桜町）では雄触肢の形態と染色体数の双方が分化しており，きわめて特異。

形態と生態：黄橙色の体が目立つ，体長約5mmの中型のザトウムシ（スベザトウムシ亜科）。おもにブナ帯以上の山地に生息。卵越冬で幼体は5月頃に孵化，7月上旬に成体となり，ブナやスギの樹幹上などに見つかる。10月中旬までには消失する。

分布(県内)：大山～鏡ヶ成，人形峠周辺以東の若桜町八サリ谷までの山域。扇ノ山周辺。

分布(県外)：本州（北アルプス，木曾御岳，白山，京都府から鳥取県までの中国山地），四国，九州祖母山（日本固有種）。



生息環境：ブナ帯以上の山地の落葉広葉樹林とスギ林。  
保護上の留意点：配慮を要するのは，東部の智頭町・若桜町の東山山系，および扇ノ山一帯にみられる集団（分布図の斜線部）。

文献：

Tsurusaki, N. (1985) Geographic variation of chromosomes and external morphology in the *montanum* subgroup of the *Leiobunum curvipalpe* group (Arachnida, Opiliones, Phalangiidae) with special reference to its presumable process of raiation. Zool. Sci., 2: 767-783.

鶴崎展巨 (1993) ヤマスベザトウムシ・ヒライワスベザトウムシ. pp. 214-215. In: 鳥取県のすぐれた自然 (動物).

執筆：鶴崎展巨

ヒライワスベザトウムシ ザトウムシ目マザトウムシ科  
*Leiobunum hiraiwai* (Sato & Suzuki, 1939)

鳥取県：その他の重要種(OT)

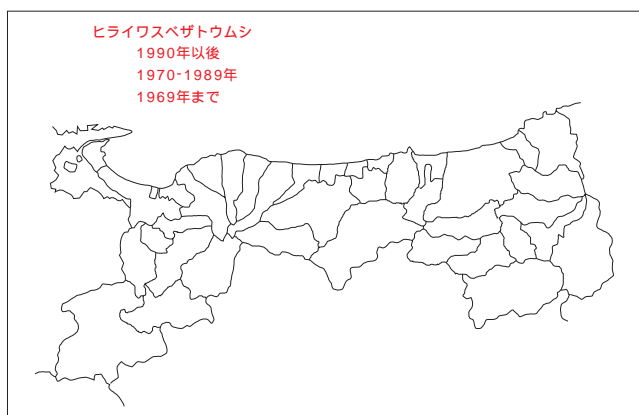
環境省：-



雄 岡山県真庭郡新庄村野土路 1990.7.27

選定理由：県内の3山域に隔離分布し，それぞれに固有の地理型が分化している。各生息域の面積は狭く，要注意。

形態と生態：前種同様，ブナ帯以上の山地に生息し成体は7月上旬から9月頃にかけてみられる。ヤマスベザトウムシに酷似し，野外での両者の識別はしばしば困難。ただし鳥取県江府町毛無山周辺および氷ノ山周辺の集団では触肢に黒化傾向がみられる(ヤマスベではでない)。雄の交尾器の形態では，船通山の集団は北九州から広島県にかけての地域に分布する九州広島型に属し，江府町毛無山周辺や氷ノ山にみられる近畿型とは異なる。染色体数は船通山が $2n=18$ ，毛無山周辺と氷ノ山ではともに $2n=20$ であるが，核型が明瞭に異なる。



分布(県内)：船通山，江府町毛無山～三平山，氷ノ山の3カ所のブナ帯以上の山域

分布(県外)：関東以西の本州，九州北部，対馬（日本固有種）。

生息環境：ブナ帯以上の落葉広葉樹林とスギ・ヒノキ林。  
保護上の留意点：ブナ帯とそれに接するミズナラ林が少なくとも現状で維持されることが重要。

文献：

鶴崎展巨 (1993) ヤマスベザトウムシ・ヒライワスベザトウムシ. pp. 214-215. In: 鳥取県のすぐれた自然 (動物).

執筆：鶴崎展巨

イラカザトウムシ ザトウムシ目ザトウムシ科  
*Gagrellopsis nodulifera* Sato & Suzuki, 1939

鳥取県：その他の重要種(OT)

環境省：-



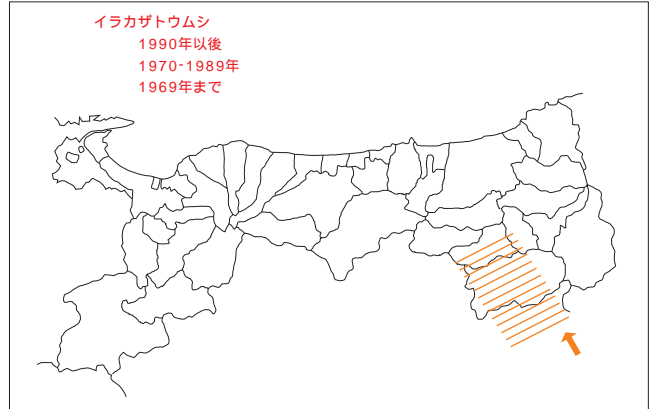
雄 智頭町駒帰林道 1992.5.21

選定理由：県内で染色体数が $2n=16-22$ の幅で分化する。東部の千代川上流域では $2n=16$ 集団と $2n=22$ 集団の間の交雑帯が成立しており、染色体数が漸次移行する。この交雑帯の幅は狭く(約5km)大規模な開発があると失われるおそれがある。

形態と生態：体長4.5mm内外の中型のザトウムシ(フシザトウムシ亜科)。背中に瓦を積み重ねたような模様をもつ(とくに雌では目立つ)。年1化幼体越冬で、成体は5-6月に出現。

分布(県内)：標高ほぼ400m以上の県内全域。

分布(県外)：山形県以南の本州と四国、九州(日本固有種)。



生息環境：標高ほぼ400m以上の山地森林。樹種は問わず、スギ人工林もよい生息地になっている。

保護上の留意点：染色体交雑帯のみられる智頭町内のスギ人工林(分布図の斜線部)では、大面積の皆伐を避けるなどの配慮をお願いしたい。

文献：

Gorlov, I. P. & Tsurusaki, N. (2000) Staggered clines in a hybrid zone between two chromosome races of the harvestman *Gagrellopsis nodulifera* (Arachnida: Opiliones). *Evolution*. 54: 176-190.

鶴崎展巨(1993)イラカザトウムシ. pp. 216-217. In:鳥取県のすぐれた自然(動物).

執筆：鶴崎展巨

アカサビザトウムシ ザトウムシ目ザトウムシ科  
*Gagrellula ferruginea* (Loman, 1902)

鳥取県：その他の重要種(OT)

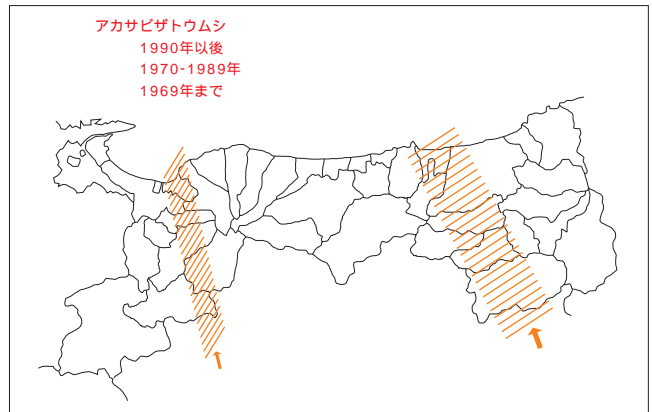
環境省：-



大山型の雄 大山川床 1992.10.3 / 撮影：鶴崎展巨

選定理由：斑紋や染色体数が県内で顕著に分化し、交雑帯もみられる。とくに、体の斑紋やサイズが東西に漸次移行する鳥取市西部～青谷町までの山域の交雑帯は貴重。

形態と生態：体長5mm内外の中型種(フシザトウムシ亜科)で背(第2背板)に1本の長い棘がある(県内で同様の棘のあるのは、他にオオナガザトウムシと海岸性のヒトハリザトウムシのみ)。西日本ではヒコナミザトウムシと並ぶ普通種で、成体は7月上旬から9月にかけて林内の樹幹や草本上に多い。鳥取市千代川の西方から鹿野町にかけての山地に、斑紋で区別される近畿型(歩脚基部が黒化、背の黒縦斑は不明瞭)と大山型(歩脚基部は黒化しない。橙色の体に黒い帯状斑が明瞭)の交雑帯が成立する。また、染



染色体数は日野川以西で $2n=12$ 、以東は14に変化する。

分布(県内)：県内全域の山地。

分布(県外)：青森県以南の本州、四国、九州、屋久島。

生息環境：低山地からブナ帯の樹林内、さらに高標高の山頂のササ原まで広く見られる。

保護上の留意点：近畿型と大山型の移行域と、染色体数が変わる日野川流域の生息域(分布図の斜線部)の保全には配慮を要する。

文献：

鶴崎展巨(1993)アカサビザトウムシ. pp. 218-219. In:鳥取県のすぐれた自然(動物).

執筆：鶴崎展巨

オオナガザトウムシ ザトウムシ目マザトウムシ科  
*Melanopa grandis* Roewer, 1910

鳥取県：その他の重要種(OT)

環境省：-

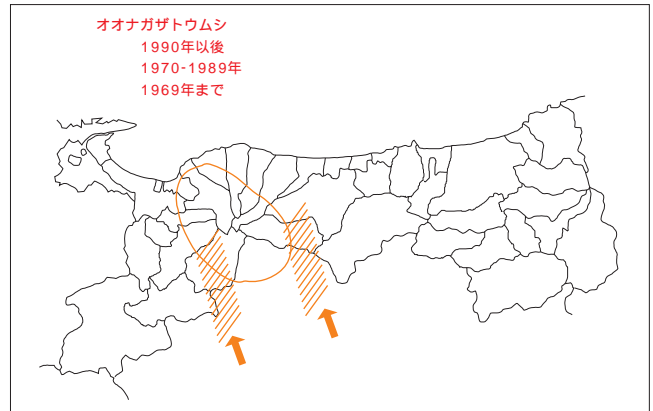


本州型の雄 鳥取市矢矯神社 1990.7.25

選定理由：大山周辺にこの地域と島根県隠岐島だけに固有の地理型（大山型）が生息し、それ以外の地域に生息する本州型と分布境界で交雑帯を形成する。

形態と生態：体長約10mm。体は黒褐色でやや長め。背（第2背板）に1本の棘がある。歩脚はやや短い。卵越冬で成体は7月上旬から出現，10月にはほぼ消失する。県内には，雄の触肢脛節下面に引き金状の突起が発達し，雌の生殖板は3区に分かれることを特徴とする大山型（大山周辺と島根県隠岐島だけに分布）と本州型（雄触肢はふつつ。雌生殖板の区分は2）の2地理型がみられる。

分布(県内)：県内の全域の山地。大山型は大山周辺と蒜山北面（分布図中，線で囲った地域），本州型は日野川以西と関金町以東に分布。



分布(県外)：北海道南部，本州，四国，九州，対馬；朝鮮半島，ロシア沿海州。

生息環境：低地から山頂部までの林内とササ原。

保護上の留意点：大山型と本州型の分布が接触する江府町および関金町の集団（分布図の斜線部）がとくに重要。

文献：

Suzuki, S. (1972) Geographical variation in *Melanopa grandis* Roewer of East Asia (Arach., Opiliones). Proc. 5th Intern. Congr. Arachnol., Burno, 1971. pp. 65-70.

鶴崎展巨(1993) オオナガザトウムシ. pp. 220-221. In:鳥取県のすぐれた自然(動物).

執筆：鶴崎展巨

フタコブザトウムシ ザトウムシ目マザトウムシ科  
*Paraumbogrella pumilio* (Karsch, 1881)

鳥取県：その他の重要種(OT)

環境省：-

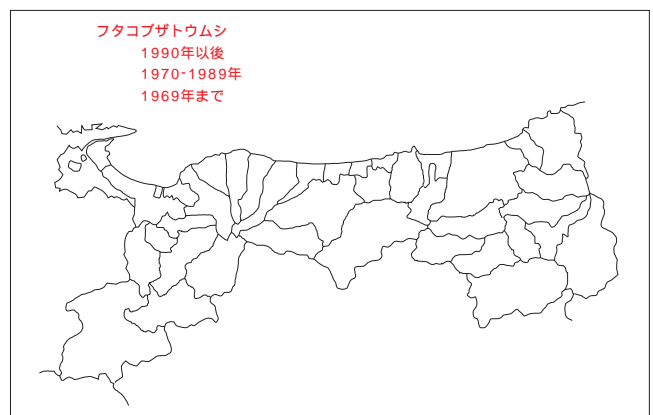


雌(左)と雄(右) 鳥取市賀露砂丘林 1991.11.26

選定理由：鳥取市が全国の西限分布地。生息地が人家付近の二次林や河川敷で，やや不安定。

形態と生態：黒褐色で，体長3mm内外の小型のザトウムシ(フシザトウムシ亜科)。腹部背面の正中線上に縦列する2個のこぶ状突起があるのが特徴。二次林の林縁や河川敷の石下，落葉層などに生息するが，草本上に上ることもある。成体越冬で，春に産卵，幼体は9月頃までには成体に達する。

分布(県内)：鳥取市の千代大橋付近の千代川河川敷と賀露砂丘クロマツ林。



分布(県外)：北海道，本州（鳥取市は分布西限；日本固有種）。

生息環境：二次林の林縁や河川敷の石下，落葉層。

保護上の留意点：ザトウムシとしては珍しく，もともと撓乱を受けやすい環境に出やすい種であるが，生息地の大規模の撓乱や消失には注意する必要がある。

文献：

鶴崎展巨(1993) フタコブザトウムシ. pp. 222-223. In:鳥取県のすぐれた自然(動物).

執筆：鶴崎展巨